

## 設 置 計 画 の 概 要

							事前伺い			
大学の名称	岡山大学				計画の区分	研究科の専攻設置				
新 設 学 部 等 の 状 況 ( 学 年 進 行 終 了 時 に お け る 状 況 )										
学部等の名称	学科等の名称	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設年度	専任教員		
					学位又は 称号	学位又は 学科の分野		異動元	助教 以上	うち 教授
教育学研究科	学校教育学専攻 (M)	6		12	修士 (教育学)	教育学・ 保育学関係	平成20年度	学校教育専攻 (M)	8	4
								新規採用	1	0
	発達支援学専攻 (M)	9		18	修士 (教育学)	教育学・ 保育学関係	平成20年度	学校教育専攻 (M)	3	2
								障害児教育専攻 (M)	5	3
								保健体育専攻 (M)	1	1
								養護教育専攻 (M)	7	3
	教科教育学専攻 (M)	47		94	修士 (教育学)	教育学・ 保育学関係	平成20年度	学校教育臨床専攻 (M)	1	0
								国語教育専攻 (M)	6	4
								社会科教育専攻 (M)	12	8
								数学教育専攻 (M)	6	3
								理科教育専攻 (M)	11	5
								音楽教育専攻 (M)	6	4
								美術教育専攻 (M)	7	5
								保健体育専攻 (M)	8	5
技術教育専攻 (M)								5	4	
家政教育専攻 (M)								7	5	
英語教育専攻 (M)	5	2								
カリキュラム開発専攻 (M)	1	1								
教育臨床心理学専攻 (M)	8		16	修士 (教育学)	教育学・ 保育学関係	平成20年度	学校教育臨床専攻 (M)	4	3	
							新規採用	2	1	

既 設 学 部 等 の 状 況										
( 現 在 の 状 況 )										
学部等の名称	学科等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設年度	専任教員		
					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
教育学研究科	学校教育専攻 (M) (廃止)	10		20	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和55年度	学校教育学専攻 (M)	8	4
								発達支援学専攻 (M)	3	2
	障害児教育専攻 (M) (廃止)	3		6	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和55年度	発達支援学専攻 (M)	5	3
	国語教育専攻 (M) (廃止)	4		8	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和55年度	教科教育学専攻 (M)	6	4
								退職	1	1
	社会科教育専攻 (M) (廃止)	8		16	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和57年度	教科教育学専攻 (M)	12	8
	数学教育専攻 (M) (廃止)	4		8	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和55年度	教科教育学専攻 (M)	6	3
								退職	1	1
	理科教育専攻 (M) (廃止)	10		20	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和55年度	教科教育学専攻 (M)	11	5
								退職	1	1
	音楽教育専攻 (M) (廃止)	5		10	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和56年度	教科教育学専攻 (M)	6	4
								退職	1	1
	美術教育専攻 (M) (廃止)	5		10	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和55年度	教科教育学専攻 (M)	7	5
	保健体育専攻 (M) (廃止)	5		10	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和56年度	教科教育学専攻 (M)	8	5
								発達支援学専攻 (M)	1	1
								退職	1	1
技術教育専攻 (M) (廃止)	3		6	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	平成15年度	教科教育学専攻 (M)	5	4	
家政教育専攻 (M) (廃止)	3		6	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和59年度	教科教育学専攻 (M)	7	5	
英語教育専攻 (M) (廃止)	5		10	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	昭和55年度	教科教育学専攻 (M)	5	2	
養護教育専攻 (M) (廃止)	3		6	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	平成9年度	発達支援学専攻 (M)	7	3	
							教職実践専攻 (P)	1	1	
学校教育臨床専攻 (M) (廃止)	9		18	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	平成11年度	発達支援学専攻 (M)	1	0	
							教育臨床心理学専攻 (M)	4	3	
							退職	1	1	
カリキュラム開発専攻 (M) (廃止)	7		14	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	平成13年度	教科教育学専攻 (M)	1	1	
							教職実践専攻 (P)	4	1	
							退職	1	1	
教育組織マネジメント専攻 (M) (廃止)	6		12	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	平成16年度	教職実践専攻 (P)	5	3	
							退職	1	1	

【備考欄】

平成20年4月 教育学研究科改組 ( ( )内は学生定員を示す。 )

《改組前》

学校教育専攻(10) 障害児教育専攻(3) 国語教育専攻(4) 社会科教育専攻(8) 数学教育専攻(4) 理科教育専攻(10) 音楽教育専攻(5) 美術教育専攻(5) 保健体育専攻(5) 技術教育専攻(3) 家政教育専攻(3) 英語教育専攻(5) 養護教育専攻(3) 学校教育臨床専攻(9) カリキュラム開発専攻(7) 教育組織マネジメント専攻(6)

《改組後》

学校教育学専攻(6) 発達支援学専攻(9) 教科教育学専攻(47) 教育臨床心理学専攻(8) 教職実践専攻(20)  
 教職実践専攻は、教職大学院として平成20年4月1日付け設置について認可済み。

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学研究科 学校教育学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎科目	学校教育の理念と今日的課題	1・2	2			○			2	1				
	小計(1科目)	—	2					—	2	1				
専門基礎科目	学校教育研究特論Ⅰ(基礎理論)	1・2	2			○			2	1	1			
	学校教育研究特論Ⅱ(教育心理学方法論)	1・2		2		○				1				
	学校教育研究特論Ⅱ(教育学方法論)	1・2		2		○				1				
	学校教育研究特論Ⅲ(教育心理学)	1・2		2		○			2	1				
	学校教育研究特論Ⅲ(教育学)	1・2		2		○			2		1			
	学校教育研究特論Ⅳ(実践研究)	1・2	2			○					1			
	小計(6科目)	—	4	8				—	4	2	2			
専門科目	教育哲学特論Ⅰ	1・2		2		○			1					
	教育哲学特論Ⅱ	1・2		2		○			1					
	教育哲学特論演習	1・2		2			○		1					
	日本教育史特論Ⅰ	1・2		2		○			1					
	日本教育史特論Ⅱ	1・2		2		○			1					
	日本教育史特論演習	1・2		2			○		1					
	西洋教育史特論Ⅰ	1・2		2		○								
	西洋教育史特論Ⅱ	1・2		2		○								
	西洋教育史特論演習	1・2		2			○							
	国際理解教育特論Ⅰ	1・2		2		○					1			
	国際理解教育特論Ⅱ	1・2		2		○					1			
	国際理解教育特論演習	1・2		2			○				1			
	学習心理学特論Ⅰ	1・2		2		○								
	学習心理学特論Ⅱ	1・2		2		○								
	学習心理学特論演習	1・2		2			○							
	教育臨床心理学特論	1・2		2		○			1					
	生徒指導特論	1・2		2		○			1					
	生徒指導特論演習	1・2		2			○		1					
	教育評価法特論Ⅰ	1・2		2		○				1				
	教育評価法特論Ⅱ	1・2		2		○				1				
	教育評価法特論演習	1・2		2			○			1				
	児童心理学特論Ⅰ	1・2		2		○								
	児童心理学特論Ⅱ	1・2		2		○								
	児童心理学特論演習	1・2		2			○							
	青年心理学特論Ⅰ	1・2		2		○			1					
	青年心理学特論Ⅱ	1・2		2		○			1					
	青年心理学特論演習	1・2		2			○		1					
	進路指導特論	1・2		2		○								
	学校カウンセリング特論Ⅰ	1・2		2		○								
	学校カウンセリング特論Ⅱ	1・2		2		○								
	教育制度特論Ⅰ	1・2		2		○								
	教育制度特論Ⅱ	1・2		2		○								
	教育制度特論演習	1・2		2			○							
	教育制度特論Ⅲ	1・2		2		○								
教育制度特論Ⅳ	1・2		2		○									
社会教育学特論Ⅰ	1・2		2		○									
社会教育学特論Ⅱ	1・2		2		○									
社会教育学特論演習	1・2		2			○								
教育社会学特論Ⅰ	1・2		2		○				1					
教育社会学特論Ⅱ	1・2		2		○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育社会学特論演習	1・2		2				○			1				
	教育方法学特論Ⅰ	1・2		2			○					1			
	教育方法学特論Ⅱ	1・2		2			○					1			
	教育方法学特論演習	1・2		2				○				1			
	授業実践研究特論	1・2		2			○								
	授業実践研究特論演習	1・2		2				○							
	道德教育特論	1・2		2			○								
	小計(47科目)	—		94				—		4	2	2			
課題研究	課題研究	1・2	4					○		4	3	2			
	小計(1科目)	—	4					—		4	3	2			
合計(55科目)		—	10	102				—		4	3	2			
学位又は称号		修士(教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
設置の趣旨・必要性															
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <p>学校教育学専攻は、教育を構成する社会・文化的要因および心理的要因について教育学、心理学をはじめとする関連諸科学の研究成果を基盤に、学校教育に関する総合的な教育研究を担う専攻として名称変更するものである。発足時、学校教育専攻は、教育学分野・教育心理学分野で構成されたが、平成6年度から幼児教育分野が加わり3分野で構成されていた。今回幼児教育分野を分離し、発達支援学専攻幼児教育コースと改組するに伴い発足時の2分野構成とする。</p> <p>学力低下、いじめ、不登校など学校教育をめぐる実践的課題を解決していくためには、教育現場の実態を観察、調査し直視するとともに、それらの要因や背景を理論的に整理し、実践の方向性を示すことが不可欠であり、このような理論の絶え間ない再構成の過程が求められる。学校教育学専攻は、そうした問題に教育の理念・歴史、制度・社会、学習・発達過程といった側面からアプローチし、教育理論に強い教員ならびに学校教育に関する研究者を養成するものである。</p> <p>学生定員を10名から6名とする。平成14年度から平成18年度までの5年間の志願者平均は22名(内幼児教育分野4.4名)であり、また平成20年度岡山県教員採用数は小中学校合わせて285名であり、社会的ニーズは十分あると考える。</p> <p>II 教育課程編成の考え方・特色</p> <p>修士課程各専攻・コースごとに目指す人材養成目的に応じた「コースワーク」の導入を行い授業科目の体系化を図る。</p> <p>コースワークとなる「専門基礎科目」は、修士課程各専攻の人材養成の目的に沿って学修課題を体系的に履修するもので、関連する分野の基礎的素養を図るものである。学校現場の諸課題を実践研究の成果に基づいて探究し、理論の発展・再構築を図ろうとする学究的態度や、高度の専門性を活かして学校現場で教育活動を展開することができる知識・技能を身に付ける。</p> <p>学校教育学専攻では、専門科目の中に学校教育に関する専門科目として「教育学」「教育心理学」「発達心理学」「学校経営」「社会教育」「教育社会学」「教育内容・方法論」「道德教育」分野を学校教育専攻と変更なく開講する。教育方法として、共通基礎科目と専門基礎科目のコースワークを設定し、専門基礎科目の中に学校現場において学ぶ実践研究を必修化し、研究指導体制を組織化するなどの実質化に取組む。</p>															
卒業要件及び履修方法										授業期間等					
2年以上在学し、必修科目10単位、選択科目22単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。										1学年の学期区分			2 学期		
										1学期の授業期間			15 週		
										1時限の授業時間			90 分		

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学研究科 発達支援学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎科目	学校教育の理念と今日的課題	1・2	2			○			2	2				
	小計(1科目)	—	2				—		2	2				
専門基礎科目	通コース共	発達支援研究特論Ⅰ(発達基礎科学)	1・2	2			○			3		1		
		発達支援研究特論Ⅱ(発達支援の方法論)	1・2	2			○			4		1		
		小計(2科目)	—	4				—		4		1		
	ス幼児教育コ	発達支援研究特論Ⅲ(幼児教育学)	1・2	2			○				1			
		発達支援研究特論Ⅳ(保育内容学)	1・2	2			○			2				
		発達支援研究特論Ⅴ(幼児教育実践研究)	1・2	2			○			3	1	1		
		小計(3科目)	—	6				—		3	1	1		
	コ特別支援教育	発達支援研究特論Ⅲ(特別支援教育学)	1・2	2			○				1			
		発達支援研究特論Ⅳ(特別支援実践学)	1・2	2			○				1			
		発達支援研究特論Ⅴ(特別支援教育実践研究)	1・2	2			○			3	2			
		小計(3科目)	—	6				—		3	2			
	ス養護教育コ	発達支援研究特論Ⅲ(養護実践学)	1・2	2			○			1	1			
		発達支援研究特論Ⅳ(学校保健医科学)	1・2	2			○			1	2			
		発達支援研究特論Ⅴ(養護教育実践研究)	1・2	2			○			1	1			
		小計(3科目)	—	6				—		2	3			
専門科目	幼児教育コース	保育内容特論(音楽表現)	1・2		2		○							
		保育内容特論演習(音楽表現)	1・2		2			○						
		保育内容特論(造形表現)	1・2		2		○			1				
		保育内容特論演習(造形表現)	1・2		2			○		1				
		保育内容特論(健康)	1・2		2		○			1				
		保育内容特論演習(健康)	1・2		2			○		1				
		幼児教育学特論	1・2		2		○			1	1			
		幼児教育学特論演習	1・2		2			○			1			
		幼児心理学特論	1・2		2		○					1		
		幼児心理学特論演習	1・2		2			○				1		
	小計(10科目)	—		20			—		3	1	1			
特別支援教育コース	特別支援教育学演習	1・2		2			○			1				
	特別支援実践学演習	1・2		2			○			1				
	特別支援実践研究方法特論	1・2		2		○				1				
	特別支援授業論特論	1・2		2		○								
	特別支援教育指導方法特論	1・2		2		○								
	特別支援心理学特論	1・2		2		○			1					
	特別支援心理学演習	1・2		2			○		1					
	特別支援病理学特論	1・2		2		○			1					
	特別支援病理学演習	1・2		2			○		1					
	特別支援教育臨床特論	1・2		2		○			1					
	特別支援教育総合演習	1・2		4			○		3	2				
	発達支援研究特論Ⅳ(特別支援教育実践研究)	1・2		2		○			3	2				
小計(12科目)	—		26			—		3	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
養護教育コース	養護実践学特論(養護教諭論)	1・2		2		○				1					
	養護実践学特論演習(養護教諭論)	1・2		2			○			1					
	養護実践学特論(養護実践論)	1・2		2		○									
	養護実践学特論演習(養護実践論)	1・2		2			○								
	養護実践学特論(学校保健学)	1・2		2		○			1						
	養護実践学特論演習(学校保健学)	1・2		2			○		1						
	養護実践学特論(保健教育)	1・2		2		○				1					
	学校保健医科学特論(健康科学)	1・2		2		○			1						
	学校保健医科学特論演習(健康科学)	1・2		2			○		1						
	学校保健医科学特論(環境と健康)	1・2		2		○			1						
	学校保健医科学特論演習(環境と健康)	1・2		2			○		1						
	学校保健医科学特論(小児保健)	1・2		2		○				1					
	学校保健医科学特論演習(小児保健)	1・2		2			○			1					
	学校保健医科学特論(学校看護学)	1・2		2		○				1					
	学校保健医科学特論演習(学校看護学)	1・2		2			○			1					
小計(15科目)		—		30		—		3	4						
課題研究	課題研究	1・2	4				○		9	7	1				
	小計(1科目)	—	4				—		9	7	1				
合計(50科目)		—	28	76		—		9	7	1					
学位又は称号		修士(教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
設置の趣旨・必要性															
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <p>発達支援学専攻は、従来、学校教育専攻の1分野であった幼児教育分野と障害児教育専攻、養護教育専攻によって新たに構成するものであり、幼児・児童・生徒の発達段階や発達課題・健康課題に即した教育研究を担う専攻として再編・改組するものである。発達支援学専攻は、心身の発達の理解から発達支援の援助法に関する知識・技能に基づく教育理論を基盤に展開するものであり、その上で幼児教育コース・特別支援教育コース・養護教育コースそれぞれの専門性を追究する専攻である。</p> <p>発達支援学専攻を設置する趣旨は、まず第1に教育現場における現代的ニーズにある。具体的には今日の学校現場において、これまでの学校教育に関する総合的な教育研究を担う学校教育学では十分には対応できない、幼児・児童への虐待や保育に欠ける児童の増加、LD・ADHD・高機能自閉症などの発達障害のある子どもの早期発見および支援、重複障害の増加から医療的ケアのニーズ拡大、心身両面からの発達支援が求められる心身症・アレルギー疾患の増加などの新たな発達課題や健康課題が出現し深刻化するとともに、幼保一元化やノーマライゼーションの推進、発達障害者支援法の施行(平成17年4月)など、幼児期からの早期の支援、心身両面からの発達支援が要請されるようになったことが指摘される。とりわけ就学前期にある子どもは、心身が未分化であるため、心身両面から総合的に子ども理解を深めることが重要となる。</p> <p>第2に発達支援学を構成する幼児教育コース、特別支援教育コース、養護教育コースで養成する幼稚園教諭、特別支援学校教諭、養護教諭の職務を比較すると、まず幼稚園教諭は、幼稚園児の教育と健康管理などを掌る教育職員であり、特別支援学校教諭は、特別支援学校において知的障害者、肢体不自由者若しくは病弱者などの教育と健康管理に従事する教育職員であり、養護教諭は、養護を掌る教育職員として応急処置・健康管理・保健教育などを通して心身の健康の維持増進を図るものである。このように3者の職務には、元来その専門性に共通部分がありかつ、教育現場で心身両面での発達支援を行なう上での連携協力が強力に求められる職種といえる。</p> <p>第3に、3コースが一体となり新たな専攻を設置することで、教育現場の変化と社会的ニーズの多様化に応じて、就学前期の心身の発達特性を踏まえ、児童・生徒一人ひとりの心と身体の実態に応じた個別的教育課題を明確化し、医療的視点も踏まえた発達支援の理論的枠組みと実践力を総合的に考究する学際的な新領域の構築を目指すことが可能となり、健康課題や発達課題のある子どもを対象とした個別教育計画の立案・実施・評価の各段階における理論的・実証的研究を行うと同時に、3コースを包括的に扱う新しい学問体系の構築の道も開けるといえる。</p> <p>学生定員はそれぞれのコース3名ずつの標準学生定員で、合計9名とする。平成14年度から平成18年度までの5年間の志願者平均は、学校教育専攻幼児教育分野は4.4名、障害児教育専攻6名、養護教育専攻5名であり定員の1.7倍である。また平成20年度岡山県下の幼稚園教諭採用数は30名弱の募集、特別支援学校教諭については平成20年度より小学校教諭並びに中学校教諭に特別支援学校区分が新設され計10名の募集、養護教諭20名募集であることから社会的ニーズは十分あると考える。</p>															

## II 教育課程編成の考え方・特色

修士課程各専攻・コースごとに目指す人材養成目的に応じた「コースワーク」の導入を行い授業科目の体系化を図る。

コースワークとなる「専門基礎科目」は、修士課程各専攻の人材養成の目的に沿って学修課題を体系的に履修するもので、関連する分野の基礎的素養を図るものである。学校現場の諸課題を実践研究の成果に基づいて探究し、理論の発展・再構築を図ろうとする学究的態度や、高度の専門性を活かして学校現場で教育活動を展開することができる知識・技能を身に付ける。

教育方法として共通基礎科目と専門基礎科目のコースワークを設定する趣旨は、他の修士課程と同様であるが、専門基礎科目において、専攻単位で発達支援研究特論Ⅰ（発達基礎科学）、発達支援研究特論Ⅱ（発達支援の方法論）を開講し相互理解を図りながら、幼稚園教諭・特別支援学校教諭・養護教諭それぞれの職業的専門性に立ったコース別科目を設定する。専門科目においては幼児教育に関する科目、特別支援教育に関する科目、養護教育に関する科目を開講する。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2年以上在学し、必修科目16単位(コース別必修科目6単位を含む。)、選択科目16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。	1学年の学期区分	2 学期
	1学期の授業期間	15 週
	1時限の授業時間	90 分

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学研究科 教科教育学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎科目	学校教育の理念と今日的課題	1・2	2			○			6	3				
	小計(1科目)	—	2					—	6	3				
専門基礎科目	共通コース	教育研究特論Ⅰ(基礎理論)	1・2	2			○			6	3	1		
		小計(1科目)	—	2					—	6	3	1		
	国語教育コース	教育研究特論Ⅱ(国語)	1・2	2			○			1				
		教育研究特論Ⅲ(国語)	1・2	2			○			1				
		教育研究特論Ⅳ(国語)	1・2	2			○			2	2			
		教育研究特論Ⅴ(国語)	1・2	2			○			2				
		小計(4科目)	—	8					—	4	2			
	社会科教育コース	教育研究特論Ⅱ(社会)	1・2	2			○			1				
		教育研究特論Ⅲ(社会)	1・2	2			○			1				
		教育研究特論Ⅳ(社会)	1・2	2			○			6	3			
		教育研究特論Ⅴ(社会)	1・2	2			○			1	1			
		小計(4科目)	—	8					—	8	4			
	数学教育コース	教育研究特論Ⅱ(数学)	1・2	2			○				1			
		教育研究特論Ⅲ(数学)	1・2	2			○							
		教育研究特論Ⅳ(数学)	1・2	2			○			1	2			
		教育研究特論Ⅴ(数学)	1・2	2			○				1			
		小計(4科目)	—	8					—	1	3			
	理科教育コース	教育研究特論Ⅱ(理科)	1・2	2			○			5	5			
		教育研究特論Ⅲ(理科)	1・2	2			○			5	5			
		教育研究特論Ⅳ(理科)	1・2	2			○			5	5			
教育研究特論Ⅴ(理科)		1・2	2			○			5	5				
小計(4科目)		—	8					—	5	5				
音楽教育コース	教育研究特論Ⅱ(音楽)	1・2	2			○					1			
	教育研究特論Ⅲ(音楽)	1・2	2			○			1					
	教育研究特論Ⅳ(音楽)	1・2	2			○			3	1				
	教育研究特論Ⅴ(音楽)	1・2	2			○			1		1			
	小計(4科目)	—	8					—	4	1	1			
美術教育コース	教育研究特論Ⅱ(美術)	1・2	2			○				1				
	教育研究特論Ⅲ(美術)	1・2	2			○			1					
	教育研究特論Ⅳ(美術)	1・2	2			○			4	1				
	教育研究特論Ⅴ(美術)	1・2	2			○			1	1				
	小計(4科目)	—	8					—	5	2				
保健体育コース	教育研究特論Ⅱ(保健体育)	1・2	2			○								
	教育研究特論Ⅲ(保健体育)	1・2	2			○								
	教育研究特論Ⅳ(保健体育)	1・2	2			○			1					
	教育研究特論Ⅴ(保健体育)	1・2	2			○								
	小計(4科目)	—	8					—	1					
技術教育コース	教育研究特論Ⅱ(技術)	1・2	2			○			2	2				
	教育研究特論Ⅲ(技術)	1・2	2			○			2					
	教育研究特論Ⅳ(技術)	1・2	2			○			2	2				
	教育研究特論Ⅴ(技術)	1・2	2			○			2					
	小計(4科目)	—	8					—	4	2				
家政教育コース	教育研究特論Ⅱ(家庭)	1・2	2			○			1					
	教育研究特論Ⅲ(家庭)	1・2	2			○			1					
	教育研究特論Ⅳ(家庭)	1・2	2			○			2	1	1			
	教育研究特論Ⅴ(家庭)	1・2	2			○			2					
	小計(4科目)	—	8					—	4	1	1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語教育コース	教育研究特論Ⅱ(英語)	1・2	2			○			3	3				
	教育研究特論Ⅲ(英語)	1・2	2			○			1					
	教育研究特論Ⅳ(英語)	1・2	2			○			2	3				
	教育研究特論Ⅴ(英語)	1・2	2			○			1					
	小計(4科目)	—	8			—			3	3				
国語教育コース	国語科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○			1					
	国語科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○			1					
	国語科教育学研究Ⅲ	1・2		2		○			1					
	国語科教育学研究Ⅳ	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ(国語学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ(国語学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅲ(国語学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅳ(国語学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ(近代文学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ(近代文学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅰ(古典文学)	1・2		2		○								
	教科内容特論Ⅱ(古典文学)	1・2		2		○								
	教科内容特論Ⅰ(漢文学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(漢文学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ(書写・書道)	1・2		2		○								
	教科内容特論Ⅱ(書写・書道)	1・2		2		○								
小計(16科目)	—		32			—			4	2				
社会科教育コース	社会科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○			1					
	社会科教育学研究Ⅰ演習	1・2		2			○		1					
	社会科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○				1				
	社会科教育学研究Ⅱ演習	1・2		2			○			1				
	社会科教育学研究Ⅲ	1・2		2		○			1					
	社会科教育学研究Ⅲ演習	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅰ(日本史)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ演習(日本史)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅱ(日本史)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ演習(日本史)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅰ(世界史)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ演習(世界史)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅱ(世界史)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ演習(世界史)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅰ(人文地理学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅰ演習(人文地理学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅱ(人文地理学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ演習(人文地理学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅰ(自然地理学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅰ演習(自然地理学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅱ(自然地理学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ演習(自然地理学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅰ(政治学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅰ演習(政治学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅱ(政治学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ演習(政治学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅰ(法学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅰ演習(法学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅱ(法学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ演習(法学)	1・2		2			○			1				
教科内容特論Ⅰ(経済学)	1・2		2		○				1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	教科内容特論Ⅰ演習(経済学)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅱ(経済学)	1・2		2		○		1						
	教科内容特論Ⅱ演習(経済学)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅰ(社会学)	1・2		2		○		1						
	教科内容特論Ⅰ演習(社会学)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅱ(社会学)	1・2		2		○		1						
	教科内容特論Ⅱ演習(社会学)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論Ⅰ(倫理学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅰ演習(倫理学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅱ(倫理学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ演習(倫理学)	1・2		2			○			1				
小計(42科目)	—		84			—		8	4					
数 学 教 育 コ ー ス	数学科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○								
	数学科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○								
	数学科教育学研究Ⅲ	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅰ(代数学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(代数学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅲ(代数学)	1・2		2		○				1				
	教科内容討論Ⅳ(代数学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅰ(幾何学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(幾何学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ(解析学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(解析学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅲ(解析学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅳ(解析学)	1・2		2		○				1				
	数学特別演習A	1・2		2			○		1					
	数学特別演習B	1・2		2			○			1				
	数学特別演習C	1・2		2			○		1					
	数学特別演習D	1・2		2			○		1					
	数学特別演習E	1・2		2			○			1				
小計(18科目)	—		36			—		3	3					
理 科 教 育 コ ー ス	初等理科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○				1				
	初等理科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○			1	1				
	初等理科教育学研究演習	1・2		2			○			1				
	中等理科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○			1					
	中等理科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○			1					
	中等理科教育学研究演習	1・2		2			○		2					
	教科内容特論(物性物理学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論(物性物理学実験法)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論演習(物性物理学実験法)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅰ(現代物理学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(現代物理学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論演習(現代物理学)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論(有機化学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論演習(有機化学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論(生物化学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論(無機化学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論演習(無機化学)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論(物理化学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論演習(物理化学)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論(動物学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論(細胞生物学)	1・2		2		○				1				
教科内容特論演習(生命科学)	1・2		2			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	教科内容特論(遺伝学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論(植物学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論演習(植物学)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論(固体地球科学)	1・2		2		○								
	教科内容特論演習(固体地球科学)	1・2		2			○							
	教科内容特論(流体地球科学)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論演習(流体地球科学)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論(地球惑星環境科学)	1・2		2		○				1				
	小計(30科目)	—		60			—		5	5				
音楽教育コース	音楽科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○			1					
	音楽科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○			1					
	音楽科教育学研究Ⅲ	1・2		2		○					1			
	音楽科教育学研究Ⅳ	1・2		2		○					1			
	教科内容特論Ⅰ(声楽)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(声楽)	1・2		2		○			1					
	教科内容討論Ⅰ(器楽)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ(器楽)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅲ(器楽)	1・2		2		○								
	教科内容特論Ⅳ(器楽)	1・2		2		○								
	教科内容特論Ⅰ(音楽学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(音楽学)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ(作曲法)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(作曲法)	1・2		2		○			1					
	小計(14科目)	—		28			—		4	1	1			
美術教育コース	美術科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○				1				
	美術科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○				1				
	美術科教育学研究Ⅲ	1・2		2		○			1					
	美術科教育学研究Ⅳ	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ(絵画)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(絵画)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅲ(絵画)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅳ(絵画)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ(彫刻)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(彫刻)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅲ(彫刻)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅳ(彫刻)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅰ(デザイン特論)	1・2		2		○								
	教科内容特論Ⅱ(デザイン特論)	1・2		2		○								
	教科内容特論Ⅰ(木工)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論Ⅱ(木工)	1・2		2		○				1				
	教科内容特論演習(木工)	1・2		2			○			1				
	教科内容特論Ⅰ(陶芸)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論Ⅱ(陶芸)	1・2		2		○			1					
	教科内容特論演習(陶芸)	1・2		2			○		1					
	教科内容特論(美術理論・美術史)	1・2		2		○				1				
	小計(21科目)	—		42			—		5	2				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
保健 体育 コース	保健体育科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○										
	保健体育科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○										
	教科内容特論Ⅰ(体育学)	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅰ演習(体育学)	1・2		2			○		1							
	教科内容特論Ⅱ(体育学)	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅱ演習(体育学)	1・2		2			○		1							
	教科内容特論Ⅲ(体育学)	1・2		2		○				1						
	教科内容特論Ⅲ演習(体育学)	1・2		2			○			1						
	教科内容特論Ⅳ(体育学)	1・2		2		○				1						
	教科内容特論Ⅳ演習(体育学)	1・2		2			○			1						
	教科内容特論Ⅰ(運動学)	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅰ演習(運動学)	1・2		2			○		1							
	教科内容特論Ⅱ(運動学)	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅱ演習(運動学)	1・2		2			○		1							
	教科内容特論Ⅲ(運動学)	1・2		2		○										
	教科内容特論Ⅲ演習(運動学)	1・2		2			○									
	教科内容特論Ⅳ(運動学)	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅳ演習(運動学)	1・2		2			○		1							
	教科内容特論Ⅰ(学校保健学)	1・2		2		○										
	教科内容特論Ⅰ演習(学校保健学)	1・2		2			○									
	教科内容特論Ⅱ(学校保健学)	1・2		2		○				1						
	教科内容特論Ⅱ演習(学校保健学)	1・2		2			○			1						
小計(22科目)		—		44			—		5	3						
技術 教育 コース	技術科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○			1							
	技術科教育学研究Ⅱ	1・2		2		○			1							
	技術科教育学研究Ⅲ	1・2		2		○			1							
	技術科教育学研究Ⅳ	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅰ(機械)	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅱ(機械)	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅰ(電気)	1・2		2		○				1						
	教科内容特論Ⅱ(電気)	1・2		2		○				1						
	教科内容特論Ⅰ(情報)	1・2		2		○				1						
	教科内容特論Ⅱ(情報)	1・2		2		○				1						
	教科内容特論Ⅰ(電気・情報)	1・2		2		○			1							
	教科内容特論Ⅱ(電気・情報)	1・2		2		○			1							
	小計(12科目)		—		24			—		4	2					
	家 政 教 育 コース	家庭科教育学研究Ⅰ	1・2		2		○			1						
家庭科教育学研究Ⅱ		1・2		2		○			1							
教科内容特論Ⅰ(家庭経営学)		1・2		2		○			1							
教科内容特論Ⅱ(家庭経営学)		1・2		2		○				1						
教科内容特論Ⅰ(家族関係学)		1・2		2		○				1						
教科内容特論Ⅱ(家族関係学)		1・2		2		○				1						
教科内容特論Ⅰ(食物科学)		1・2		2		○			1							
教科内容特論Ⅱ(食物科学)		1・2		2		○			1							
教科内容特論Ⅲ(食物科学)		1・2		2		○			1							
教科内容特論Ⅳ(食物科学)		1・2		2		○			1							
教科内容特論実験(食物科学)		1・2		2				○	1							
教科内容特論Ⅰ(被服科学)		1・2		2		○					1					
教科内容特論Ⅱ(被服科学)		1・2		2		○					1					
教科内容特論実験(被服科学)		1・2		2				○			1					
教科内容特論Ⅰ(住居学)		1・2		2		○			1							
教科内容特論Ⅱ(住居学)		1・2		2		○			1							
小計(16科目)			—		32			—		5	1	1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
英語教育コース	英語科教育学研究	1・2		2		○			1						
	教科内容特論Ⅰ(英語学)	1・2		2		○			1						
	教科内容特論Ⅱ(英語学)	1・2		2		○			1						
	教科内容特論Ⅲ(英語学)	1・2		2		○				1					
	教科内容特論Ⅳ(英語学)	1・2		2		○				1					
	教科内容特論Ⅴ(英語学)	1・2		2		○				1					
	教科内容特論Ⅵ(英語学)	1・2		2		○				1					
	教科内容特論Ⅰ(英米文学)	1・2		2		○			1						
	教科内容特論Ⅱ(英米文学)	1・2		2		○			1						
	教科内容特論Ⅲ(英米文学)	1・2		2		○				1					
	教科内容特論Ⅳ(英米文学)	1・2		2		○				1					
小計(11科目)	—		22					3	3						
課題研究	課題研究	1・2	4				○		46	30	2				
	小計(1科目)	—	4						46	30	2				
合計(245科目)		—	88	404					46	30	2				
学位又は称号		修士(教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
設置の趣旨・必要性															
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <p>教科教育学専攻は、教育目的・内容と教材化、指導方法・評価の側面から各教科教育の在り方を総合的かつ実践的に教育研究する専攻として、これまで各教科別に立てられていた10専攻を統合し名称変更するものである。各教科別に専攻を立ててきたことは、個々の教科専門分野の学問的知識・技術を理論的に深めることを可能としてきたが、一方で教科単位での研究が過度に重視される傾向や、教科内容と教科教育が並立したままで教育実践に根ざすことが不十分となりがちであったことが指摘されている。今回教科教育学専攻として10専攻を10コースに統合することで、連携して教育実践に根ざした教科教育学の展開を可能にするために、コースワークの導入など教育方法の充実を図ることとする。</p> <p>学生定員は10専攻合計52名から5名減の47名とする。それぞれのコースにおいて、これまでの志望者の実績ならびに指導体制に応じて標準学生定員(国語教育4名、社会科教育7名、数学教育3名、理科教育7名、音楽教育5名、美術教育5名、保健体育教育5名、技術教育3名、家政教育3名、英語教育5名)を決める。平成14年度から平成18年度までの5年間の10専攻の志願者数平均は、67.2名、定員の1.3倍であり他専攻と比べると倍率は比較的低いが、平成20年度岡山県中学校教諭は105名募集であり、教科教育学10コース合計47名について社会的ニーズはあると考える。</p>															
<p>II 教育課程編成の考え方・特色</p> <p>修士課程各専攻・コースごとに目指す人材養成目的に応じた「コースワーク」の導入を行い授業科目の体系化を図る。</p> <p>コースワークとなる「専門基礎科目」は、修士課程各専攻の人材養成の目的に沿って学修課題を体系的に履修するもので、関連する分野の基礎的素養を図るものである。学校現場の諸課題を実践研究の成果に基づいて探究し、理論の発展・再構築を図ろうとする学究的態度や、高度の専門性を活かして学校現場で教育活動を展開することができる知識・技能を身に付ける。</p> <p>共通基礎科目・専門基礎科目のコースワークを設定することは他の修士課程と同様であるが、専門基礎科目において、専攻単位で教育研究特論Ⅰ(基礎理論)、教育研究特論Ⅱ(方法論)を開講し、教科教育と教科内容を効果的に組み合わせた体系的な教育課程の編成を行なう。さらに、専門基礎科目の中に学校現場において学ぶ実践研究を必修化し、教育研究を教育実践に根ざしたものとする。専門科目には、これまでの各専攻で開講していた教科教育科目並びに教科専門科目をコース単位で開講する。</p>															
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
2年以上在学し、必修科目16単位(コース別必修科目8単位を含む。)、選択科目16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分				2 学期			
								1学期の授業期間				1 5 週			
								1時限の授業時間				9 0 分			

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(教育学研究科 教育臨床心理学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎科目	学校教育の理念と今日的課題	1・2	2			○			1	1				
	小計(1科目)	—	2					—	1	1				
専門基礎科目	臨床心理学特論Ⅰ	1・2	2			○								
	臨床心理面接特論Ⅰ	1・2	2			○								
	臨床心理査定演習Ⅰ	1・2	2				○			1				
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1・2	1					○	1					
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1・2	1					○	1					
	臨床心理応用実習Ⅰ	1・2	1					○	1					
	臨床心理応用実習Ⅱ	1・2	1					○	1					
小計(7科目)	—	10					—	2	1					
専門科目	臨床心理学特論Ⅱ	1・2		2		○			1					
	臨床心理面接特論Ⅱ	1・2		2		○			1					
	臨床心理査定演習Ⅱ	1・2		2			○			1				
	臨床心理応用実習Ⅲ	1・2		1				○		1				
	心理学研究法Ⅰ	1・2		2		○			2	1				
	心理学研究法Ⅱ	1・2		2		○			2	1				
	臨床心理学研究法特論	1・2		2		○								
	人格心理学特論	1・2		2		○								
	青年心理学特論Ⅰ	1・2		2		○								
	発達臨床心理学特論	1・2		2		○								
	教育評価法特論Ⅰ	1・2		2		○								
	学習心理学特論Ⅰ	1・2		2		○								
	教師の職能成長とコーチング	1・2		2		○								
	スクールリーダーと組織開発	1・2		2		○								
	精神医学	1・2		2		○								
	健康心理学特論	1・2		2		○				1				
	学校カウンセリング特論Ⅰ	1・2		2		○			1					
	学校カウンセリング特論Ⅱ	1・2		2		○			1					
	喪失と悲嘆の心理臨床学	1・2		2		○			1					
	グループカウンセリング特論	1・2		2		○								
小計(20科目)	—		39				—	2	1					
課題研究	課題研究	1・2	4				○		4	2				
	小計(1科目)	—	4				—	4	2					
合計(29科目)		—	16	39			—	4	2					
学位又は称号	修士(教育学)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									

設 置 の 趣 旨 ・ 必 要 性

I 設置の趣旨・必要性

教育臨床心理学専攻は、これまでの学校教育臨床専攻の役割を教職大学院と分担し、教育臨床心理学分野の教育研究を担うとともに、臨床心理士養成の第1種指定大学院〔(財)日本臨床心理資格認定協会（以下「協会」と記載）〕として充実を図り、学校教育現場への志向性をより明確に持った臨床心理士の養成を行う。そのために、臨床心理士資格取得希望者の要望を踏まえ、現在の臨床心理士養成の第2種指定大学院を、平成20年度に教員や施設面の充実などを図って第1種指定大学院としての変更申請を行うことを計画している。なお、第1種指定大学院の名称は臨床心理学を冠するよう協会申請指針（18年度版）に示されているため、本専攻では教育実践への志向性を重視する観点から「教育」を付けて「教育臨床心理学」に名称変更するものである。さらに夜間大学院を昼夜開講とし、学部新卒者及び現職教員等を対象とする。

学生定員は、1名減の8名とする。学校教育臨床専攻の平成14年度から平成18年度までの5年間の志願者平均は29.4名、定員3.3倍であり、社会的ニーズは非常に高いといえる。

II 教育課程編成の考え方・特色

修士課程各専攻・コースごとに目指す人材養成目的に応じた「コースワーク」の導入を行い授業科目の体系化を図る。

コースワークとなる「専門基礎科目」は、修士課程各専攻の人材養成の目的に沿って学修課題を体系的に履修するもので、関連する分野の基礎的素養を図るものである。学校現場の諸課題を实践研究の成果に基づいて探究し、理論の発展・再構築を図ろうとする学究的態度や、高度の専門性を活かして学校現場で教育活動を展開することができる知識・技能を身に付ける。

専門教養科目・専門基礎科目のコースワークを設定する趣旨は他の修士課程と同様である。教育内容としては、これまでと同様、子どもの学校不適応等の理解と支援の実践的方法に重点を置き、問題に対する相談活動のみならず予防的な取り組みも行えるように学生の教育と訓練の内容を充実させる。これにより教育相談や心理臨床の活動を組織やチームの中で展開する実践力を持った教員やスクールカウンセラー等の養成を図ることを目指すものである。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2年以上在学し、必修科目16単位、選択科目16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分